

第3章 上サロベツ自然再生の目標

第1節 上サロベツ湿原の自然再生目標

1. 自然再生目標の設定

【1】高層湿原の自然再生目標

上サロベツ湿原の中核である高層湿原においては、おおむね国立公園指定時の植生や広がり状況をイメージし、現在もその当時の良好な状況を残していると見られる箇所を標準とし、これを具体的目標とします。目標の達成を目指すにあたっては、現存する湿原植生等の保全を図ることを最優先とし、近年明らかに劣化・変化した範囲に対し対策を講じます。

【2】ペンケ沼の自然再生目標

埋塞が進行しているペンケ沼とその周辺湿原については、多くの絶滅のおそれのある貴重な動植物種が確認され、生物多様性の豊かな空間であることから、現況の維持(これ以上、埋塞が進まない状態)を目標とし、そのための対策を講じることとします。

【3】泥炭採取跡地の自然再生目標

泥炭採掘跡地においては、開水面の閉塞を進め、湿原植生の再生・創出を図ることを目標とします。自然再生にあたっては、渡り鳥が開水面を利用していることや、植生・生態系の回復過程を観察できるフィールドとして活用することなども考慮し、現況を維持するエリアも一部に設定します。

【4】砂丘林帯湖沼群の自然再生目標

砂丘林帯湖沼群については、生態系の保持のために、水位低下の抑制を目標とします。

2. 自然再生目標と達成手法の基本原則

自然再生目標の達成を目指すにあたっては、生物相と生態系の現状を科学的に把握し、生態系の時間的・空間的変化の要因を明らかにし、将来を予測し、事業の必要性和手法を十分に検討したうえで、事業を実施します。自然再生事業を進めるうえでは、まず生態系自身のもつ自然の回復力を活かすべきであり、それによる回復が見込めない場合に、必要最小限の人為により最大の回復効果が得られるよう、十分な時間をかけて慎重に取り組みます。生態系の応答は複雑で予想困難な場合が多い

ことから、個別の事業は小規模なものとして試行し、自然の状況をモニタリングして事業の達成度を客観的に評価し、常にフィードバックしながら順応的に進めます。サロベツ原野におけるこれまでの多くの研究成果・知見を踏まえ、地域の自然素材をできる限り活用しつつ、きめ細かい丁寧な手法により進めるものとします。

第2節 農業の振興に係る目標

入植者の開墾の労苦から始まったこの地域の酪農は、今日では宗谷地方の基幹産業にまで成長しました。酪農を、今後とも地域の基幹産業として発展させるには、地域の土地資源を有効に活用し、粗飼料を主体とする草地型酪農を循環農業として実践していくことが必要です。このため地域の農地の過半を占める泥炭農地について、泥炭地の特性を考慮しつつ農地や排水路の再整備を行い、湿原と共生する酪農地帯としての農業の振興を目指します。

自然と共生した農業の振興という地域の取り組みが、「国立公園の自然と共存するおいしくて安心な豊富牛乳、農産物」というサロベツブランドの確立に繋がることを目指します。

第3節 地域づくりに係る目標

上サロベツ湿原は国立公園の核心部であり、ここで行われる自然再生の過程に触れること等を通じて、湿原を中心とした地域の自然環境の特性やしぐみについて、学び体験する場所として活用します。また、周辺に広がる農地・農村においては、開拓の歴史や農業等の人の生業と自然との切り離せない関わりを学び、かつ楽しむ場として活用するとともに、国民保養温泉地に指定されている豊富温泉を滞在拠点として活用していきます。

このため、国立公園や農地等に対して必要な整備を行うとともに、地域住民の活動と連携して、地域の自然資源等の利活用による自然とのふれあい、エコツーリズムと地域農業を活かした特産品の開発や、ルーラルツアーを推進し、サロベツブランドの確立を図ります。